

幹事会・運営委員会報告

庶務幹事 前田裕宣、坂井信彦

◇第Ⅰ期幹事会(第4回)

日時 平成7年11月11日(土) 午後1時30分～午後4時45分
場所 東京大学 工学部 列品館 中会議室
出席者 菊田、虎谷、下村、村田、渡辺、坂田、塩谷、菅、松井、圓山、坂井、前田、
上坪(共同チーム・財団)、鈴木、牧田(財団)、佐久間(事務局)。
註) 上坪リーダーには施設説明者として参加いただく。

〈各幹事報告〉

庶務幹事：坂井

- ・ 現会員数は、前回幹事会以降22名の新入会員と4名の脱会者があり、現在935名になった。
- ・ 事務局の現状について。

利用幹事：村田

- ・ 今年度の報告書について
今年度の英文報告書は体裁を変更する。内容は、共同チーム・財団並びに利用幹事の3者で検討し、その結果Introduction、Beamline Report AおよびBeamline Report Bの3章にした。Introductionは併設案の経緯と現状について利用幹事が報告し、Beamline Aは光源および各ビーム・ラインの仕様について共同チームの担当者が、またエンド・ステーションの所で計画されている研究内容については各サブグループの代表者が紹介することになった。Beamline Bはまだエンド・ステーションの建設に着手していないグループに研究計画やアイデア等を書いていただくことになった。なお、原稿の依頼は11月末までに各サブグループの代表者に配布し、締め切りを平成8年1月31日とした。

利用幹事：下村

- ・ 「戦略的基礎研究制度」について
1 課題当たり年間約2億円で最高5年間である。また応募は個人或いは数名の研究者を対象にしている。なお対象分野は広く、放射光に限らない。SPring-8建設立ち上げ時期に積極的に利用したい。情報は各幹事とそれぞれのSG世話人に連絡している。今後ともそのようにする予定である。会長、上坪リーダーからも関連したいくつかのコメントがあった。
- ・ 「30m長直線部の利用」について
光源系、挿入部、光学系、利用系と4つのセクションうち利用の観点からそのコヒーレンスや高フラックスの特徴を生かした研究計画を広く会員に募っている。

平成8年4月17-19日に開催が予定されている「SPring-8の30mの長直線部の利用」についての国際ワークショップに懇談会も共催で参加する。

会計幹事：虎谷

- ・今年度予算の使用状況についての中間報告。
- ・事務局事務処理・連絡用コンピュータの更新の提案を検討し、承認した。

編集幹事：圓山

- ・「光彩」と「SR科学技術情報」の編集業務の役割分担についてこれまで両誌で重複する情報があった。JASRIの「促進機構」への指定にともない、「SR科学技術情報」誌の見直す時期なので、今後どのように調整したらよいか、また整理統合する可能性はどうかについて検討が始まった。
- ・「光彩」の発行について
「光彩」の次号（8号）発行予定は11月末。
- ・「光彩」掲載記事について
共同チームからの記事は共同チームの現状をよく把握したうえで依頼する必要がある。また掲載記事に対する共同チームからの注文をどのように対処するか今後検討を要する。他幹事からも意見が多数あった。

行事幹事：坂田

- ・合同シンポジウムについて
平成8年度の合同シンポジウムについてはPF側の再検討（平成8年3月までに結論）を踏まえて決定される。

運営幹事：塩谷

- ・上坪リーダーから菊田会長に示された「大学研究者のSPring-8利用について（案）」を10月26日付けで各運営委員および幹事に配布し、意見を求めた。4通の返事があった。
- ・10月25日科学技術庁の大型放射光施設整備推進室を訪問した。（会長と3名の幹事）。その際SPring-8の利用研究に利用できる研究費として「戦略的基礎研究制度」の紹介があった。直ちに利用幹事から各サブグループ世話人に資料を配布した。また共同利用の制度について、SPring-8利用者懇談会のこれまでの要望について意見の交換をした。

〈共催案件の検討〉

学術的会合の共催依頼が「広エネルギー領域XAFS」サブグループより提出されたが慎重審議の結果、共催の主旨にそぐわない面もあるので、小規模シンポジウム補助および印刷・製本補助で対処することとした。

〈共同利用方式の検討〉

上坪リーダーより「大学研究者のSPring-8利用について」の提案説明があった。懇談会としてはそれを叩き台として文部省等との意見交換をしていくこととした。また、共同チームより「大学研究者のSPring-8への係わり方」に関して、

1. ビームライン建設における役割分担について

2. SPring-8供用について

の説明があった。立ち上げ時期の申請についても意見の交換があった。

〈外国人会員の取扱いについて〉

将来の外国人の利用者に情報提供する必要がある。具体案については庶務幹事が財団および共同チームと協議し方策を検討することとした。

〈次期運営委員選挙について〉

選挙管理委員候補者3名を会長が指名し、近日中に選挙管理委員会を発足させることとした。「運営委員候補者推薦のお願い」を「光彩」8号に掲載する。

〈その他〉

・平成7年度総会のプログラムについて

共同チーム、財団の現状報告を含めたプログラムを行事幹事が立案することとした。プログラムは「光彩」8号に掲載する。

◇第Ⅰ期幹事会（第5回）

日 時 平成 8年1月10日（水） 午後5時～午後6時

場 所 岡崎市竜美ヶ丘会館大3階303 （岡崎）

出席者 菊田、虎谷、下村、坂田、徳永、塩谷、菅、松井、圓山、難波、坂井、前田、植木（共同チーム・JASRI）、鈴木、牧田（財団）、佐久間（事務局）。

〔報告事項〕

当幹事会は第Ⅲ運営委員会（第3回）の前に開催され、各幹事から現状の報告がなされた。内容は続いて開催された運営委員会と同一なので、詳細は「第Ⅲ運営委員会（第3回）」報告を参照していただく。ここにはその項目のみを記録する。

〈会長報告〉：平成7年度のSPring-8の活動報告がなされた。

〈各幹事報告〉

庶務幹事：前田

- ・運営委員選挙中間報告
- ・会員名簿の更新について
- ・入会申請者が35名あった。

会計幹事：虎谷

- ・SPring-8利用者懇談会平成6年度決算報告
- ・SPring-8利用者懇談会平成7年度予算および中間報告

行事幹事：坂田

- ・合同シンポの見直し
- ・共催に関する報告

編集幹事：難波

- ・「光彩」の発行について
- ・「光彩」と「SR科学技術情報」の整理統合する可能性について

利用幹事：下村

- ・利用研究課題SGについて
- ・SGメンバー登録について
- ・SG活動記録
- ・世話人会SG
- ・戦略的基礎研究推進事業について

運営幹事：塩谷

- ・共同利用の制度整備について
- ・運営幹事からの提案について

◇第Ⅲ期運営委員会（第3回）

日 時 平成 8 年 1 月 1 0 日（水） 午後 6 時～午後 7 時 3 0 分

場 所 岡崎市竜美ヶ丘会館大 3 階 303 （岡崎）

出席者 菊田、虎谷、下村、坂田、塩谷、菅、松井、尾嶋、大門、水木、安岡、渡辺、
難波、圓山、徳永、坂井、前田、
植木（共同チーム・JASRI）、鈴木、牧田（財団）、佐久間（事務局）。

渡辺氏を議長に本年度第 3 回の運営委員会を開催した。

〈会長報告〉

会長より次のとおり報告がなされた。

- ・“SPring-8利用者懇談会”の前身である“次世代大型 X 線光源研究会”の発足の当時の様子、その後の経過、また“次世代大型 X 線光源研究会”が発展的に解消し“SPring-8利用者懇談会”に生まれ変わった経緯と今日までの活動が利用者サイドの立場から紹介があった。その中には、次世代大型 X 線光源研究会時代の「サーキュラー」、SPring-8利用者懇談会の「光彩」等広報誌の発行開始、大型放射光施設の早期建設開始に関する要望書提出、および共同利用ビームライン計画書の提出等の活動が含まれている。また、次のように平成 7 年度の SPring-8利用者懇談会活動経過が報告された。
- ・（財）高輝度光科学研究センターからの委託調査
（財）高輝度光科学研究センターからの委託業務を実施しており、今年度も英文報告書を準備している。

- ・原研・理研大型放射光共同チームとの協議
建設時期を迎え原研・理研大型放射光共同チームとの連絡を密にしたいと考え共同チーム・利用者懇談会連絡会議を設置した。
- ・共同利用ビームライン実験ステーションの建設への協力
10本の共同利用ビームラインへの23サブグループの相乗り案を提案、その具体化に協力し、建設の初動資金の補充に科学技術庁の戦略的基礎研究推進事業への応募にも積極的な取り組みをした。また、建設グループの責任者・副責任者の選任、建設グループメンバーの現地出張の手続き等の問題についても検討した。
- ・共同利用方式の検討
ビーム使用料・出張旅費・研究経費・出張形態等の問題について文部省・科学技術庁に利用の立場から要望した。特に、大学院生の参加の取り扱いに関して強い要望を伝えた。
- ・JASRI放射光研究所の肉付け
現在、利用者に関心の強い実験研究部門6研究グループの陣容について検討し、それを関係機関に要望した。
- ・30m長直線部の利用の早期実現の働きかけ
4月17～19日姫路で開催される国際ワークショップに共同チーム・JASRIと共に共催で参加する。
- ・「日本放射学会年会・放射光科学合同シンポジウム」について
今回の合同シンポジウムの見直しに際し、継続を提案した。また、学会発表と各施設の発表とを区別する為にそれぞれのロゴ・マークを使用しては如何と提案した。SPRING-8利用者懇談会もこれからロゴ・マークを検討する。
- ・広報誌「光彩」の7～9号を発刊し、また会員名簿もその改訂版を発行した。

〈各幹事報告〉

庶務幹事：前田

- ・運営委員選挙中間報告
選挙管理委員会を3氏（姫工大：伊藤、岡山大：野上、JASRI:牧田）に依頼した。
現在、1次選挙で20名の候補者に絞っている。
- ・会員名簿を更新し、発送した。
- ・入会申請者35名を加え現会員総数は946名になった。

会計幹事：虎谷

- ・SPRING-8利用者懇談会平成6年度決算報告
ライフサイエンス研究分野および材料科学研究分野について使用状況が述べられた。また、約30%の会費未納がある事も報告された。
- ・SPRING-8利用者懇談会平成7年度予算および中間報告
各サブグループ開催（予算使用）の状況が説明され、世話人会の開催等財政的にはある程度ゆとりがある旨報告があった。

行事幹事：坂田

- ・合同シンポジウムの見直しについて
「日本放射学会年会・放射光科学合同シンポジウム」について1月8日の会合

で菊田会長からこれを継続する旨提案がなされた。3月末までに結論が出る。

- ・共催に関する報告
今年度「広エネルギー領域XAFS」から財政的な援助を伴った共催の申込みがあり、検討の結果、小規模シンポジウム補助と印刷・製本補助を行うこととした。

編集幹事：難波

- ・「光彩」の発行について
「光彩」の8号を12月上旬に発行した。次号（9号）発行は3月の予定。
- ・編集幹事の補充について
編集幹事の圓山氏が6ヶ月海外出張するので、その間伊藤正久氏（姫工大・理）に編集幹事に加わっていただく事が報告された。
- ・「光彩」への折り込み紙の可否について編集幹事の判断で処理する事になった。
- ・「光彩」と「SR科学技術情報」の整理統合する可能性について今後、編集幹事を中心に役割分担の問題、整理統合化の可能性等について検討する。

利用幹事：下村

- ・利用研究課題SGについて
現在登録されているサブグループの数は34で、サブグループ名、世話人とも昨年度よりの変更はない。
- ・SGメンバー登録について
昨年8月に登録サブグループの確認をお願いした。その結果昨年12月末までに延べ845名、実数576名と会員の2/3以上の方がサブグループ登録されている事が分かった。
- ・SG活動記録
別紙の通り昨年4月から12月まで延べ30回サブグループの会合が開かれた。
- ・世話人会SG
平成7年7月18日（火）、東大総合図書館で第1回の世話人会が開催され、約70名の参加者があった。当日の話題は以下のとおりであった。

話題

1. 会長挨拶
 2. SPring-8の現状
 3. ビームライン建設の現状
 4. ビームライン建設の進め方
 5. ビームライン建設についての討論会
併設ビームラインのアンケート結果
- ・戦略的基礎研究推進事業について
科学技術庁で今年度から発足した「戦略的基礎研究推進事業」の制度にSPring-8利用者懇談会として積極的に取り組み、SPring-8関連で20件の応募があった。その課題名と代表提案者名は科技庁放射光推進室に伝えた。
 - ・英文報告書作成のお願い
平成7年度の報告書について、共同チーム、JASRIとの相談の上、体裁を決めた。

内容は、

1. 建設の決まったBLの名称と位置など、
 2. (Beamline Report A)建設の決まった10本のビームラインの仕様と研究計画
 3. (Beamline Report B)計画中のBLについての報告、
- である。締切を1月31日として、SG世話人に詳しいフォーマットを送付し、報告書が円滑に作成できるように依頼した。
- ・ 30m長直線部に関する国際ワークショップについて
上記ワークショップが共同チーム、JASRI、利用者懇談会の共催で4月17日から19日に姫路で開催される。詳細は近日中に決まる

運営幹事：塩谷

- ・ 共同利用の制度整備について
「大学研究者のSPring-8利用について」が共同チームより提示された。その要点は種々の検討を行った結果この案を実行に移すには、現在のところ(財)高輝度光科学研究センター(JASRI)にはPF方式の共同研究を行う「制度上の」あるいは「建前上の」予算がないので、文部省関係研究者の共同利用に関しては、文部省に「大学共同利用窓口」を設置するということである。しかし、この案はこれまでSPring-8利用者懇談会が要望していた一元的共同利用の運営という内容とかなりかけ離れているものであったので、文部省国際学術局研究機関課および科学技術庁大型放射光施設整備推進室を訪問し、意見交換を行った。また、運営委員および幹事にも「大学研究者のSPring-8利用について」を配布し意見を求めた。
- ・ 運営幹事からの提案について
科学技術庁大型放射光施設整備推進室を訪問した際、可能性のある一つの考えとして以下の考えが示された。
 1. 当面の措置として、課題選定委員会で採択された共同利用の研究課題については、JASRIが窓口となり原研・理研との新しい共同研究という形を形式的に取ることによって、実質的にPF方式と同等な共同利用制度をつくることができる。
 2. 今後、JASRIが名実ともに新しい共同研究のパートナーとなれる種々の措置を検討していく。

そこで運営幹事としては、この考えを基本として具体的な案を詰めていきたいという主旨の報告があり、了承された。